

福井の幕末明治 歴史秘話

<第8号>

平成28年4月28日発行

世界都市東京を目指した府知事、由利公正 ~ニューヨーク等に肩を並べる街に~

由利公正は、廃藩置県後の明治4年（1871年）、東京府知事に任命されました。今回は、その時代に目を向けます。

明治初期の東京の姿は、武家屋敷が整然と立ち並び、瓦が美しく連担した町並みでした。しかし、明治2年（1869年）の版籍奉還等により諸大名は江戸を去り、武家との取り引きによって生計を営んでいた市民は生活に困窮し、人口は激減しました。東京の道路にはごみが放置され、雨が降れば道路は膝までつかるなど、外国人から政府に対して苦情が絶えなかったと言われています。「帝都東京」とは言っても、実態は近代化が遅れた未整備な都市でした。これら都市問題の解決が、府知事、由利公正に課せられていた使命だったのです。

由利が府知事に就任してから半年後の明治5年（1872年）2月26日、銀座一帯が大火となります。28万坪が焼失し、5千戸が全焼、2万人が被災したと言われています。由利は、この機に抜本的な都市改造が必要だと考え、街路を思い切って広くすることや不燃性の煉瓦建築にすることなどを柱とする大がかりな不燃性都市化計画を提案しました。

この時、由利と意見の対立を見せたのが当時の大蔵大輔、井上馨です。由利と井上は、ともに強烈な個性とプライドを持ち、大規模な計画を主張する由利と、多額の財政支出を望まない井上は意見が一致しませんでした。銀座の復興計画は、道路以外は話が進展しない状況となりました。井上は一計を案じ、同じ長州藩出身の大久保や伊藤と謀り、由利を岩倉使節団に参加させたと言われています。府知事現職のまま渡米した由利は、明治5年（1872年）7月、イギリスにおいて府知事を罷免されたことを知ります。銀座の復興計画はその後、井上とイギリス人ウォートルスの主導により進められ、明治11年（1878年）秋に全体の建設が完了しています。



井上馨肖像

歴史に“もしも”は禁物ですが、もし、由利が渡米せず、知事のまま、東京府の復興計画を実施していたら、ニューヨークやロンドン、ワシントンに肩を並べる帝都東京ができていたかもしれません。

～幕末ふくい歴史紀行～

[東京都江戸東京博物館]

・由利公正が取り組んだ東京不燃化計画。その結果生まれた銀座の姿を復元したジオラマが展示されています(常設展の展示「文明開化東京」)。江戸から現代へ連なる首都東京の誕生と経過を知ることができます。

住所: 東京都墨田区横綱1-4-1 (JR総武線両国駅西口から徒歩3分)



模型「銀座煉瓦街」

★お知らせ 東京都庁展望室で福井ゆかりの偉人をPR!

・5月2日(月)～5日(水)、7日(土)～9日(月)に、都庁の南展望室で開催。

・幕末明治期に福井、東京の両方で活躍した松平春嶽、由利公正、橋本左内のエピソードをパネルで紹介します。福井の幕末ハンドブックも配布し、海外からも観光客が訪れる展望室で、幕末明治の福井をPRします!